

持続可能な地域農業の構築

～ 農業を次の世代にバトンタッチ ～

【 知内町中ノ川地区 6戸 】(地域第3係)

令和5年度

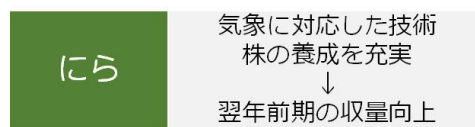
(課題番号8)

1 課題の背景

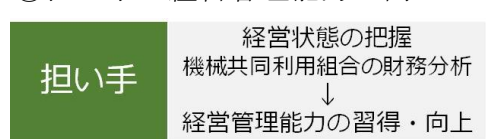
地域	<ul style="list-style-type: none"> ●知内町は施設園芸と水稻の複合経営 ●重点対象は6戸 ●施設園芸が農業生産額の84%を占める
にら	<ul style="list-style-type: none"> ●経営の主軸は「にら」 ●作業競合や大雨により株養成が不安定 ●株養成の充実が生育・収量に影響
担い手	<ul style="list-style-type: none"> ●担い手は3名、内2名は経営移譲 ●経営管理能力の習得・向上が必要 ●3名は水稻機械共同利用組合の主軸

< 活動の方向 >

①にらの生産性向上



②担い手の経営管理能力の向上



2 活動内容(経過)

①にらの生産性向上

- ・3項目の栽培技術(左下表を参照)を提案し、個別巡回・現地研修で技術実践を支援した。
- ・生育調査、収量調査を実施し、技術実践の効果を農業者と共に確認した。

表1 活動内容①

項目	内容
排水改善	ハウス周辺に明きよを施工
倒伏防止	葉刈りの実施
石化施用	秋掃除刈り後に表面散布



個別巡回



現地研修

②担い手の経営管理能力の向上

- ・経営上の把握や決算書から財務状況を読み解く定期的な学習会を行った。
- ・法人化の興味に応えるため、担い手主査の支援を受け法人組織についての座学を開催した。
- ・冬期にハウス収支の管理会計実習、機械共同利用組合の財務分析実習を行った。

表2 活動内容②

月	内容
4月	管理会計実践に向けた現状把握
5、7月	企業のBS/PLを読み解く財務分析
8月	法人組織の基礎
12～1月	ハウス・月別収益などの管理会計
1～3月	機械共同利用組合の財務分析



定期的に学習会を開催
(実習形式)



座学(法人組織の基礎)
写真左: 佐藤主査

3 活動成果

①にらの生産性向上

- 溝掘り機施工による排水改善の実施（目標 3 戸→実績 3 戸：到達度100%）
- 葉刈りによる倒伏防止策の実施（目標 1 戸→実績 3 戸：到達度300%）
- 秋の掃除刈り後の石灰施用（目標 3 戸→実績 3 戸：到達度100%）

気象に対応した技術を改善して株養成を充実し、にらの生育を向上することができた

表3 令和5年の技術改善とにらの生育

農家	排水改善	倒伏防止	石灰施用	技術改善の内容	にらの生育
A	-	○	-	2年目養成ほ場の葉刈り	3.5
B	-	-	-		2.2
C	○	○	○	溝掘り機（ハウス入口手前）、石灰施用	4.1
D	○	○	○	カットレーンmini、溝掘り機、石灰施用	4.0
E	○	-	○	カットレーンmini、溝掘り機、石灰施用	4.1
F	-	-	-		3.0

技術改善 ○：実施した -：未実施
 にらの生育 5：良好～1：不良(測定：莖径、生葉数、他観察により評価)



<農業者の声>
 効果に期待。掘り上げた土が作業に影響しないか心配

- 溝掘り機はニラ生産組合の現地研修会でも実演
- 対象地区以外の2戸が溝掘り機による明きょ施工を実施
- ↓
- 地域への波及が見られつつある



ニラ生産組合での実演

②担い手の経営管理能力の向上

- 機械共同利用組合の損益計算書による経営状態把握者数(目標 3 人→実績 3 人：到達度100%)

経営状態の把握に向けて様々な実習を行い、理解を深めることができた

表4 経営管理能力の習得表

農家	企業BS/PLの財務分析実習	法人組織の基礎について	ハウス・月別の管理会計実習	機械共同利用組合の財務分析実習	機械共同利用組合の経営状態の把握
A	○	○	○	○	○
B	○	○	○	○	○
C	○	○	○	○	○

×：未習得 △：少し分かる(習得した) ○：概ね習得できた -：未実施



<農業者の声>
 経営状況の判断ができるようになったと思う

4 今後に向けて

①にらの生産性向上

にら ●安定生産のため技術支援の継続

②担い手の経営管理能力の向上

担い手 ●経営改善案の粘り強い支援